にいがた老施協

(社)新潟県老人福祉施設協議会広報誌

2012.8.31
No.15

厳しい時代に対応する

新潟県老人福祉施設協議会副会長
市井栄吉

今年度は介護保険制度の改正、保険報酬の改定が実施され、地域包括ケアの益々の推進が謳われると同時に、報酬については実質マイナスという私たち事業者にとっては大変に厳しいものとなりました。24時間定期巡回・随時対応型訪問介護・看護や小規模多機能型居宅介護に複合型の新設が図られるなど、地域ケアに対する苦肉の策とでも言える内容ではないでしょうか。

今、国政の場では「社会保障・税の一体改革」を中心に議論が為されていますが、全く予断を許さない状況であることは周知です。根本は国に金がないということですから、本来政権がどうだという話ではありません。財政学者の一部では、相当以前から消費税15%は必要だという議論が普通に行われていたと聞きます。そんなことで介護保険制度についても「制度の大枠を維持するには??」という表現が使われるようになっています。注視して行くしかないのですが、目が離せません。

全国老施協では「科学的介護」を掲げ、会員施設の介護の質の向上を強く働きかけています。言われるまでもなく、専門性に欠ける「勘と度胸と経験」だけの介護では寂しい限りです。特に認知症高齢者への介護は、今までにない難しさがあります。研修を重ねることは勿論大事ですが、同時に優秀な人材を確保する事の重要性と困難さは事業所共通の悩みだと思います。

新潟県老施協でも、諸課題に対応し得る組織として、「経営課題への取り組み」、「介護の専門性の確立による質の向上」を大きな柱に据え、変革を厭わずに「行動」して行かなければなりません。結果として、県民福祉の向上は言うまでもなく、携わる現場職員の処遇向上につながるよう会員施設の期待に応える事業を展開していくために、これからも多くの会員の参画をお願いする事になりますが、よろしくお願い致します。

Contents

老施協会長挨拶……1
研修だより……2～4
地域紹介……5～7
施設長リレーコラム……8

研修だより

1．新潟県喀痰吸引等研修

平成24年７月に、喀痰吸引等指導者講習が日本赤十字看護大学（東京都）で行われました。新潟県喀痰吸引等研修は昨年度から始まり、基本研修（講義50時間、演習）、筆記試験、実地研修をクリアーし認定特定行為業務従事者に認定された介護職員が喀痰吸引等を実施できるもので、本講習はその研修講師を養成するための国の指導者講習の位置づけです。

今回は、指導者講習を受講された皆様を代表して「特別養護老人ホーム虹の里」看護師　岡本茂子様　に研修の様子をお伺いしてみました。

今年の研修は、すでにご案内のとおり、新潟・長岡・上越の３会場に分かれて、10月１日から行われます。

喀痰吸引等指導者講習に参加して

特別養護老人ホーム虹の里
看護師
岡　本　茂　子

私は、このたび日本赤十字看護大学で行われた指導看護師の研修に参加させていただきました。参加人数は、241名でその中で特養・老健の看護師は百十七名、訪問看護師は12名、支援学校・グループホームの看護師は、33名　他79名でした。

各専門分野の先生の講義、喀痰吸引等研修・演習、経管栄養実施手順解説・演習があり、最後にパネルディスカッションがありました。

吸引での危険なトラブル、経管栄養でのトラブル等を聞き、介護職員へどうしたら安全に医行為が出来るか、危険が回避できるかを学びました。

今後新潟、長岡、上越の三会場で指導看護師による講義が開始されます。医行為をさせる事において介護職員の不安解消、手技の熟練等を、指導看護師として頑張って行きたいと思います。ありがとうございました。

2．新潟県主任介護支援専門員研修

平成18年から本会が受託を開始した「主任介護支援専門員研修」の模様をご紹介します。近年主任介護支援専門員の資格取得希望者が多く、毎年定員を大幅に上回る受講申込みをいただいています。

この研修は、時間にして65時間、日数にして11日間のハードな研修で、提出を求められる事例やレポート等も多く、介護支援専門員としての豊富な経験を基にさらに高度な理論や技術を学ぶもので、地域全体のケア体制を考える上では必要不可欠の職種と言えます。

今年も新たに98人の主任介護支援専門員が誕生しますが、講師の一人で「在宅介護支援センター広神」の管理者枝村和江様は、修了者に次のようにエールを送っています。

平成24年度新潟県主任介護支援専門員研修　講師から一言

在宅介護支援センター　広神
管理者
枝　村　和　枝

受講生の皆様、修了レポートを提出しほっと一息といったところでしょうか。猛暑日の中での11日間の研修、本当にお疲れ様でした。きっと、研修期間中に、利用者に何事もありませんように、緊急連絡が来ませんようにと祈るような気持ちで参加し、職場に帰ると、休む間もなく、調整に追われた大変な日々だったことと思います。

介護支援専門員は、常に自分の仕事を振り返り、対人援助の専門職として役割が果たせているかを自己点検する厳しい視点が必要と考えています。河野先生がおっしゃっていた「内省」ですね。11日間、知識として学び、演習したことをぜひ現場で生かしてください。

今回の研修で、ご自身の実践の振り返りができ、これから地域や職場の中で自分と仲間のために、「事例研究、スーパービジョン」に取り組みたいというお気持ちになれば幸いです。一緒に学んだ仲間と、一歩から始めてみて下さい。応援しています。

研修最終日、スーパービジョンⅢで各グループの代表者による事例検討会の様子です。

事例研究では、主任介護支援専門員の先輩である講師が細かく指導します。受講生の表情も真剣そのものです。

平成24年度新潟県主任介護支援専門員研修を受講して

居宅介護支援事業所　長和園
諸　橋　　亘

11日間の研修期間を無事修了し、受講した97名の皆さんと一緒に、資格を取得することができ大きな喜びを感じています。

今回の研修で、受講生同士新たなネットワークを築くことができました。今後の業務を進めていく上で、このネットワークは大きな財産となると考えます。

研修の中で更に学びを深めたいと感じたことは、事例検討とスーパービジョンの実践方法でした。これからの事例検討・スーパービジョンの実践を通し、自分自身に足りないものは何かを内省して、進め方や指導方法の技術が向上できるように、日々努力したいと思います。

今回の学びを活かし、私が担当している御利用者が、住み慣れた地域で安全に安心して、暮すことができるように支援して行きたいと思います。長期間に亘るご指導ありがとうございました。

3．新潟県介護支援専門員実務従事者基礎研修

この研修は、介護支援専門員に従事して１年未満の方を対象としたブラッシュアップ研修で、新潟県における介護支援専門員資質向上事業の研修科目となっています。本会では、この介護支援専門員実務従事者基礎研修及び主任介護支援専門員研修については、行政や学識経験者、講師経験者などで組織する企画会議で詳細を決定し、演習については担当講師により具体的な進め方などの細部の検討を行っています。グループ討議などで、各グループにファシリテーターが付いてその精度を高めたことも検討の成果です。

今年の研修は募集が終了し、10月１日から開始となります。講師の一人で「特別養護老人ホームこころの杜」の施設長田中保雄様は、受講者の皆様に対し次のようなエールを送ってくださいました。

平成24年度新潟県介護支援専門員実務従事者基礎研修、講師から一言

社会福祉法人　苗場福祉会
特別養護老人ホーム　こころの杜
施設長
田　中　保　雄

介護支援専門員実務従事者基礎研修は、実務に就いてから1年未満の介護支援専門員等が受講する研修で、ケアマネジメントのプロセスを自分の事例を用いながら振り返る内容になっています。基礎研修を通し、受講者自身が普段の利用者とのかかわりやケアマネジメントに対し、不安を抱きながら懸命に仕事に携わっている受講者の姿を見て、年々この基礎研修の位置づけ、重要性を強く感じているところです。研修内容も各演習グループにファシリテーターを配置したりと、より細かく受講生に対応できるよう取り組んでいるところでございますが、施設と在宅でのケアマネジャーの位置づけの違い等、課題もあります。しかし、研修に参加された受講者からは、「同じ不安、悩みを抱える仲間がいて、自分だけではないんだ」と思うことができた方や、「自分自身のケアマネジメント方法を振り返ることができ、とても有意義な研修であった」とのご意見もいただいているところです。今後も、受講者が少しでも自分自身の業務を振り返ることができ、また、実践で一歩でも踏み出せることができるよう支援していきたいと思います。

老施協事務局で、新潟県の担当者や担当講師が集まって、演習の進め方など細部に亘る検討を行いました。

地域紹介　村上ってどんなとこ

レポーター　特別養護老人ホーム　羽衣園
主任介護士　渡　辺　千美子

今年の新潟県老人福祉施設研究大会は、９月25日(火)・26日(水)の二日間にわたって県北の村上で開催されます。村上での開催は平成19年以来２回目で、今回の実行委員長佐藤清八施設長（特養「羽衣園」）は、次のように村上を紹介しておられます。

特養「羽衣園」の佐藤でございます。今年の研究大会では大勢の会員の皆様に村上にお越しいただきたいと思っています。かつては村上藩の城下町として栄え、素晴らしい自然に囲まれ、豊富な食文化にあふれる村上を早速ご紹介いたします。レポーターは、特養羽衣園の主任介護士　渡辺　千美子です。

1．イントロ村上

村上市は、平成20年４月１日に、旧村上市、旧荒川町、旧神林村、旧朝日村及び旧山北町が広域合併して誕生した人口６万５千人の町です。

新潟県の北端に位置し、北から東にかけては山形県に接し、南は関川村及び胎内市と接しています。市の面積は約1174平方キロメートルで、県の総面積のおよそ9.3％を占めています。

旧村上市街地は、かつては村上藩の城下町として栄え、現在でも市中に武家町、町人町、寺町の面影が残っており、特に町人町は囲炉裏や梁、大黒柱に吹き抜けなど伝統的な家屋や住宅が点在し、町屋めぐりとして観光客の人気スポットとなっています。また、黒塀通りには重要文化財のお寺も多く、城下町として栄えた昔が偲ばれます。

村上の大町通り

黒塀通り

2．伝統的なお祭り

７月６日(宵祭)、７日(本祭)に行われる勇壮にして華麗なる村上大祭は、三基の神輿にご心霊を奉還して荒馬、稚児行列を先導に市中を巡行する「お旅神事」。彫刻を施したうえで、堆朱・堆黒の枠をこらした豪華絢爛なオシャギリ（屋台山車）にもこの地域の伝統がうかがえます。瀬波大祭、岩船大祭と合わせて村上三大祭りとも称されます。他に毎年３月の人形さま巡り、９月の屏風祭りが有名です。

村上大祭　羽黒町

屏風まつり

瀬波大祭

岩船大祭

3．旨いもの

村上と言えば「鮭・酒・なさけ(人情)」といわれています。

村上市を流れる三面川・荒川・大川・勝木川には、秋になるとたくさんの鮭が銀鱗をおどらせます。村上では、平安時代から鮭が特産として知られ、世界に誇る鮭文化を築いてきました。

この地方の方言で鮭のことを「イヨボヤ」と呼び、多彩な料理法で頭から尻尾まで捨てることなく鮭を料理します。

塩引き街道　塩引き鮭

清らかな三面川の伏流水に恵まれ、背後に上質の酒米産地を持つ村上は伝統の酒処。気候風土に恵まれ、全国的に名高い越後杜氏の職人の技によって醸される村上の地酒は高い人気を誇っています。

もう一つ忘れてはならないものは「村上牛」で、その肉質は色鮮やかで風味良く、一味違う黒毛和牛と称され特にサーロインステーキは絶品。

4．ご存知、瀬波温泉

瀬波温泉は、眼下に広がる日本海と粟島を夕陽が染める海岸の温泉です。明治37年に石油の採掘中に噴出、豊富な湯量と熱さが自慢の別名「熱の湯」。白砂青松と夕陽に染まる海を眺めながらの露天風呂もまた格別。

瀬波温泉やぐら

5．羽衣園は自然の中

特別養護老人ホーム「羽衣園」は旧朝日村地内にあり、飯豊朝日山系に源を発する三面川のたもとに立地しています。自然が豊かで周りを水田や樹木に覆われ、春夏秋冬それぞれの季節を肌で感じることができる小鳥のさえずりが常に聞こえるのどかな場所にあります。

観光スポットとしては、日本の滝１００選の一つ「鈴ヶ滝」、県下有数の発電量を誇る奥三面ダム、江戸時代に金山として栄えた鳴海金山、縄文時代の土器等の展示されている縄文の里朝日、新緑や紅葉が鮮やかな朝日スーパーラインなどがあります。また、布部やな場では、三面川の急流の中にスノコを張り、落ちるアユを捕まえます。香魚アユは、囲炉裏を囲んで炭火で焼いて食べることができます。「塩焼き」ではなく「素焼き」にして焼き立てに醤油を垂らしていただきます。皆様も是非この素晴らしい自然を味わってみてはいかがですか。

羽衣園

鈴ヶ滝

うちの施設長

特別養護老人ホーム「羽衣園」

施設長
佐 藤 清 八

今年の４月に同法人の特養たかつぼより異動してきました。

人柄は気さくで温厚、温和な施設長です。おしゃれで眼鏡がチャームポイントです。当法人の理念「一人ひとりの安心と笑顔のために」をモットーに日々、ご利用者、入所者、地域の皆様に良質・安心・安全なサービスの提供や職員の資質向上に取り組んでいます。法人本部事務局に従事していたこともあり、事務手続きや会計にも精通しています。現在、老施協部会長やその他、地域役員としても忙しく活動されていますが、お昼には施設の食事をご利用者と一緒に食べたり、ご利用者との触れ合いを大切にしています。又、職員のよき相談相手でもあり、日々、忙しく働く職員のメンタルヘルスケアにも力を入れています。そんな佐藤施設長は毎日、明るい笑顔で園内を回っています。

・趣　　味…毎朝、熱い温泉に入り心身共にリフレッシュすること。テニスを楽しむこと。(現在休部中)
・好きな食べ物…ラーメンとカレーライスです。
・座 右 の 銘…一期一会

施設長リレーコラム

「出前介護教室」

特別養護老人ホーム虹の里 園長 **五十嵐 智子**

当「虹の里」は、北陸自動車道「巻・潟東インター」より５分程の広い蒲原平野の中にあります。近くに団地もできましたが、春には青々と育つ苗の生育を楽しみ、秋の黄金色の稲穂の収穫を利用者様と一緒に四季折々の田んぼ風景を眺めながら、ゆるやかな時間を過ごさせて頂いております。

私は、本年４月１日、小規模多機能型居宅介護事業所・学童事業所「愛・楽・結いずい」管理者より異動となり、「虹の里」園長として勤務することになりました。かつて、勤務した経験はあるものの、小規模施設から大規模施設の相違する業務面や多くの職員の把握に日々新たな気持ちで努めているところです。

施設発足時から地域に根差し、地域のニーズに応えるべく様々な取り組みを行ってきました。その中で、地域の方を施設に受け入れるだけではなく、地域に出向いての「出前介護教室」の開催を多く手がけてきました。特に地域の皆さんに認知症状事例やその対応方法について、職員が認知症劇団Ｒ－Ⅱを結成し、楽しくわかりやすい内容で開催してきました。写真は、地域に出向いて行なっている様子です。その結果、「認知症の理解とその介護」に着実に実績を挙げてきたと自負しています。

また、８月に「虹の里」全職員参加の認知症内部研修を実施致しました。認知症の関わり方について「虹の里ルール」を決めて、現在取り組んでいます。これからも、この研修を重ねる毎に全職員が決める１つひとつのルールづくりで対応を行っていきたいと思っております。

地域との信頼と期待のなかで、利用者を主体とした良質なケアを心がけながら、私どもは、利用者様、ご家族、関係機関等、日々さまざまな人たちとのつながりや関わりで、成長させて頂いております。

これからも「虹の里」は、地域の皆さんの心のよりどころとなるべく、福祉の拠点としての役割を果たしていけるように、職員と一緒に努力してまいります。

出前介護教室「虹の里職員による認知症劇団Ｒ－Ⅱ」の公演場面

編集後記

連日暑い日が続きますが、気候だけでなく、オリンピック、高校野球、尖閣諸島、竹島と我々の周りの環境も暑くなっております。領土問題は相変わらずそれぞれの国内事情を反映して、歴史的事実よりも今の力関係を基に動いているようです。お金は国境を越えて瞬時に行き来していますが、国民感情は相変わらず高い国境が存在するようです。フランスとドイツはお互いに国境を接しており、アルザス・ロレーヌ地方は戦争のたびにどちらかの国が支配するような大変な歴史を歩んできましたが、今は基本的にはフランスに属し両国はユーロ圏の中では立場を異にするものの、友好関係を維持しています。このような大人の関係が、日本と中国、日本と韓国の間でなぜできないのか、不思議でなりません。こんなことを考えながら、開催まで１か月を切った研究大会に照準を合わせて頑張っております。

発行所　社団法人　新潟県老人福祉施設協議会
新潟県新潟市中央区上所2丁目2-2 新潟ユニゾンプラザ２F
電話 025-281-5534
発行人　近　藤　和　義

にいがた老施協
平成24年８月31日発行

印刷　阿部印刷株式会社